

AT&T(T)

【セクター】 通信サービス

【市場】 NYSE

【企業概要】

米国の大手通信業サービス会社です。主要部門の売上構成比（19年4-6月期）は、携帯電話事業のモビリティが38.0%、ビデオエンターテインメントや高速インターネットなどからなるエンターテインメントグループが24.7%、企業向け通信サービスのビジネスワイヤラインが14.4%、CNN、TNT、TBSなどの放送局を擁するターナーが7.4%、映画専門チャンネル「Cinemax」を運営するHBOが3.7%、映画製作のワーナーブラザーズが7.4%を占めます（図表1）。

【業績】（単位：売上、純利益は百万ドル、EPS、DPS、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%）

決算期	売上高	純利益	EPS	DPS	BPS	ROE	自己資本比率
17年12月期	160,546	52,915	8.55	1.97	22.9	40.1	32.0
18年12月期	170,756	22,062	3.24	2.01	25.3	13.6	36.5
19年12月期予想	181,879	25,350	3.56	2.05	26.2	13.8	-

※EPS：1株当たり利益、DPS：1株当たり配当、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

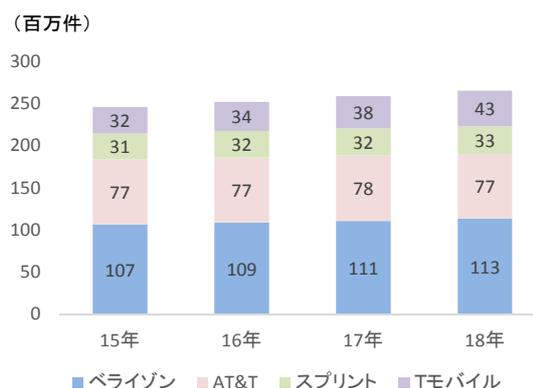
【主要指標】

図表1 部門別売上（19年4-6月期）

部門	売上 (億ドル)	構成比 (%)
コミュニケーション	355	77.0
モビリティ	175	38.0
エンターテインメントグループ	114	24.7
ビジネスワイヤライン	66	14.4
ワーナーメディア	84	18.1
ターナー	34	7.4
HBO	17	3.7
ワーナーブラザーズ	34	7.4
南米	18	3.8
Xandr	5	1.1

(出所) 会社資料よりSBI証券が作成

図表2 米通信大手4社の携帯電話契約数（後払い契約）



(出所) BloombergデータよりSBI証券が作成

【会社の見方】

米国の携帯電話市場は飽和状態に近づきつつあり、同社の携帯電話契約者数（後払い契約）も77~78百万件で停滞しています（図表2）。このため同社は、一流のコンテンツ、消費者への対応力、広告技術、ブロードバンドの通信能力などを統合して新世代のメディア企業へ生まれ変わろうとしています。タイム・ワーナー社の買収完了によって、この事業プランは大きく前進しました。一方、米アクティビストのエリオット・マネジメントからの圧力もあって、非戦略分野の事業売却が検討されています。

【見通し・注目点】

5G(第5世代移動通信システム)では限定的なサービスを19の地域で提供中で、2020年中に2億人が居住する地域のカバーが目標です。売上成長にあらわれてくるのは、2021年頃と見られます。同社は2017年に公共の無線ブロードバンド網「FirstNet」(第一応答者専用のネットワーク)の事業者に選定されて全米にネットワークを構築しており、5Gネットワークの構築でも優位に作用することが期待されています。20年12月期のガイダンスは売上が前年比1~2%増、EPSは3.60~3.70ドルとして、いずれも市場予想を上回りました。

(SBI証券 投資情報部 榮 聡)

(更新日 19/10/30)

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。